

# この子らも成長する

## ——生活単元を中心とする学習指導法——

足利市立相生小学校 国 安 章 平

### はじめに

知えのおくれた子どもたちを担任して四年。暗中模索の生活で今日を迎えた。でも月日と共にはっきりしてきたことは、有名無実的な存在の子どもたちが驚くほどりっぱに成長していることである。

しかし、反面においては学級経営上の問題いやこの教育の根本問題かも知れないが、実に多くの問題があることを体験してきた。それらの問題は乏しい能力の担任を常に悩まし続けている。各種の報道機関によって一般社会の関心も次第に高まりつつはあるが真実に知えおくれということについて理解している人は決して多いとはいえないようである。

知えのおくれた子どもたちは、学年が進むにつれて目立った存在となってくる。級友に追いつかない。学習内容はますますむずかしくなる。登下校はしているがことで終ってしまうことになる。

能力に応じた教育、人権を認め、人格を尊重するとさけんでも困難さは現状であろう。これらの子どもたちと生活を共にしてきた過去には

- 何も知らずただ促進学級的な指導（1年目）
- 感覚機能訓練を考えた作業学習（2年目）
- 家庭の理解と協力を得る方法（3年目）

そして、本年度を迎えるもっとも効果的だといわれている学習指導法——生活単元学習の指導法に力を入れてみた。自己反省のつもりでここにまとめてみた。

### 生活単元学習の意義

知えのおくれた子どもの一般的な特性は、

精神の発育が恒久的に停滞し、精神の構造が未分化である。そのために学習能力が劣り、応用・総合等の能力に欠けるため、知識・技能等の習得が断片的になる。

ということから、学習指導は具体的な生活場面において、全部または一部の各教科の内容を統合して与えなければならない。というのは、生活に役立つ生きた知識・技能として習得すること、また知えおくれにもその個人差が極めて大きいからである。

ここで考えられるのが生活単元学習である。即ち、子どもたちの具体的な生活場面、生活に役立つ生きた知識・技能として習得するという条件からである。

子どもたちの興味や関心を主にする。

生活単元学習展開にあたって基本的な考え方を次のようにしてみた。

- (1) 前述の特性にもとづき、子どもたちの興味や関心から出発すること。
- (2) 実際生活場面の欲求・問題・目的・経験等多種多様な展開であること。
- (3) 学習展開にあたっては、読む・話す・聞く・数える・歌う・作るなど拡大された内容であること。(身体・感覚の訓練・情緒の安定も)
- (4) 単元の配列は、児童の実態・季節・学校行事等、その他地域的な特性や突発的なことがらなどを考えて年間計画とする。

以上のように子どもたちの興味を中心にした生活経験を一つのまとまりとして学習させ、より豊かな内容の生活をねらうものである。

### 3. 年 間 計 画 (単元名のみ)

1. 新しい友だち ..... 4月
2. こいのぼり ..... 5月上旬
3. 修学旅行 ..... 5月中下旬
4. みんなの家(宿泊学習) ..... 6月
5. 学習発表会 ..... 7月上中旬
6. もうすぐ夏休み ..... 7月中旬
7. 夏休みの反省 ..... 9月上旬
8. 運動会 ..... 9月中下旬
9. 秋の野山・遠足 ..... 10月
10. 作品展 ..... 11月
11. 年のくれ ..... 12月
12. お正月 ..... 1月上中旬
13. 冬の生活 ..... 1月中旬
14. もうすぐ春 ..... 2月中旬
15. お別れ会 ..... 3月

### 4. 単 元 展 開

#### (1) 導入について

予想される年間計画は前年度の結果をもとにしたものであるが、これらの単元にはいる導入方法は一定していない。単元により子どもたちの活動(日常生活)の状況によって異なっている。時によっては話し合いから展開内容を具体化し、ある単元では作文から、教師の説明から、教室環境から、または日記からによる導入もあった。

#### (具体例その1)

◎新しい友だちー 卒業していく旧6年生の机が目立ち、淋しい教室で子どもたちは眼を光らせる。「こんどは何人はいってくる?」「なんていいう子?」「男だといいいな」そんな話し合いでいるうちに、「去年の○○くんは泣いたんなあー」こんな話し合いのうちに子どもたちは、新しい友だちを迎える心の用意ができるはじめている。新しい友だちということにに対する関心と興味

の強さによるものだろう。本単元の導入にはほとんど子どもたちだけでも十分のようである。直ぐ展開計画にはいる。

(具体例その2)

◎修学旅行 一 学校の基本的な計画ができたところで担任はクラスの子どもたちに修学旅行の計画をザッと説明してやる。子どもたちは、この説明がまちどおしいくらいにしていたものである。従って事前学習の計画がスムースに立てられる。

(具体例その3)

◎秋の野山 一 子どもたちの作文や日記に昨今の生活経験が楽しそうに書かれている。各人各様ではあるが共通的な話題が見出せる。

即ち、秋の野山の美しさ、楽しさなどがそれである。これら共通の話題は個々の生活経験から集団の生活経験へと拡大し発展していく。

以上三つの具体例を述べたが、いずれの場合でもいえることは、子どもたちの共通的な興味や関心のものであれば導入はスムースであり、展開内容も充実したものとなるようである。そういう意味で生活単元学習の導入は大切なものであるといえるようだ。

(2) 合科統合された学習内容

ドリル学習の結果でも明確なことは、単なる機械的な処理となるような計算問題などはやらせばかなりできる。しかし、それは生活場面に応用されることがないのである。将来の社会的自立を目標としてみたとき、この子たちには帰納的な学習方法、また内容で進める必要があった。これを基本として学習内容を考えた。「生活の中にあるもの、経験しようとするものであり、そのためには独立した教科の形で学ばせるのではなく、いくつかの教科を合わせたり、統合したりして指導することが重要であり効果があるということになるようだ。

これから実際に指導した例をもって説明してみたい。

単元展開例△

単元名 みんなの家(宿泊学習)

1. 単元設定の理由 一 楽しくすごした修学旅行、とくに6年生から一泊旅行の思い出が級友せんたいにミリョクあるものとして聞きとられた。そこから共同生活の楽しさを再現し、みんなと家庭生活の経験をすることは、独立心・自律心の育成として絶好の機会であると考え展開計画を立てることにした。

2. 目標

- (1) 日常生活の実際訓練から、それに必要なこと、また発生する問題に対して自主的に適応処理する能力をもたせる。
- (2) 家庭内のきまり、社会の人々の結びつきを理解させると共に自分の立場を自覚させる。
- (3) 進んで学習する態度を育てる。

3. 計画と主な学習内容

- (1) 宿泊学習の計画 • 6月のこよみ •宿泊までの予定表作り
- (2) 宿泊室の準備 • このごろの天気 • つゆどきの保健 • 室内の消毒 • 大掃除
- (3) 生活表 • 生活のきまり • いろいろな係 • 食事のこんだて • 炊事の実習  
• 材料購入
- (4) 宿泊学習 • 参加の態度 • 余暇の活用 • 親子レクリエーション
- (5) 反省会 • 結果の反省 • 実施記録の作成

#### 4. 展開(例1)

---

##### ◎ 宿泊学習の計画

###### ① ねらい

- 実施計画の必要性とその立て方を理解させる。
- 実施計画を立てらせる。

###### ② 展開(学習内容)

- 6月のこよみを見る。  
表としての見方(何日、何曜日、今週、来週、商店休み)  
大、小の月の関係  
このごろの天気の特徴
- 実施計画の立て方  
事前に必要な事項(宿泊室の掃除、たたみほし、へやの消毒、係のしごと、こんだて  
料理実習、材料の買い方、生活表作り等)
- 当日の進め方  
結果の反省  
• 計画表を作る。

---

##### (例2)

---

##### ◎ 宿泊室の準備

###### ① ねらい

- 清潔せいとんの必要性を理解させる。
- 自分の責任分野をはたせると共に協力の心を育成する。

###### ② 展開(学習内容)

- 寝具について  
毛布をほす、戸棚のそうじ消毒
- へやについて  
たたみほし、床面のそうじ消毒

- ・消毒のしかた  
日光消毒・薬品による消毒
- ・薬品の取扱い  
能率的な作業の進め方

## 結果の考察

以上のようにして学習を進めてみた。その結果から次のようなことが考えられる。

### (1) 宿泊学習の計画

前単元の発展した形でスタートした本単元は、子どもたちの興味が大きかった。それだけに宿泊学習そのものを想像し、すぐあしたにも実施しようとなりがちだった。  
そこで、事前の準備、またその全体的な計画の必要なことを説明して子どもたちの理解を得た。いつごろどんな方法で実施するかを考えさせ、その前に6月の学校行事や教師の予定などをきかせ、こよみを見ることにした。

それから、宿泊学習の日時を決める。それまでに必要なこと（事前の準備）を話し合う。一かきこみを要することよみを作ることになる。日数の計算、ますをつくる。長さの等分、線の引きかきこみを要することよみを作ることになる。日数の計算、ますをつくる。長さの等分、線の引き方、ものさしの使用法。曜日や週別、またその呼び名（今週、先週、来週等）わずかの時間に実方、ものさしの使用法。曜日や週別、またその呼び名（今週、先週、来週等）わずかの時間に実方、ものさしの使用法。ここで感じたことは、理解するのに抵抗が少ないとということである。がし的指導ができた。ここでもっとも効果的だったのは、つゆどきの天気や室内の諸条件の変化を実際に指導できたことである。それと関連のある各家庭の春秋の大掃除——どうして大掃除をするか、どんな方法にてすればよいか、子どもたちが経験できたからである。しかし、予定通り進行しない季節の障害があった。

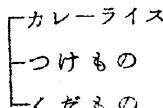
### (2) 宿泊室の準備

ここでもっとも効果的だったのは、つゆどきの天気や室内の諸条件の変化を実際に指導できたことである。それと関連のある各家庭の春秋の大掃除——どうして大掃除をするか、どんな方法にてすればよいか、子どもたちが経験できたからである。しかし、予定通り進行しない季節の障害があった。

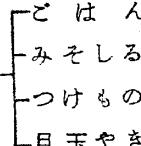
### (3) 食事のこんだて

子どもたちには楽しいものであったようだ。そこでだれもが好物であるというものを一品用意し、全体的な考え方をまとめ次のようなものができる。

夕食(1日目)



朝食(2日目)



かんたんなものであるが、主として6年生の女子が作ることになった。ただ目玉やきはだれも

自分でやってみることになった。



当日になつたとき結果として簡単ではなく、むしろ事前において実習時間をとっておけばよかつたようだ。

#### (4) 食事指導

具体的なしかも小さいことであるが、給食時間の指導とはまた変った感じのするものであった。電灯のあかるさにうつし出された子どもたちの料理、おいしそうに腹一ぱい食べる姿は家庭の夕食時を思い出され

る。ここで指導がてつてできたことは、

- ・みんなの協力によって食事の用意（炊事のすべてを含む）ができたこと。
- ・ぎょうぎよく楽しく食べること。
- ・自分の食べた後片づけは自分ですること。

などである。

#### ◇ おわりに

知えおくれの子の特性から生活単元学習は効果的な方法のように思つた。というのは、ここに述べてきた経験の一こまからも分析できそうである。

効果的だといえる第一は、単元展開の出発点においてである。子どもたち全部が欲求を形に表わしたこと、さらに内容的に子どもたちの興味で満ちているということである。その結果は終始意欲的な学習によっても知ることである。換言すれば教師から与えようとする学習でなく、子どもたち自らが求めようとする学習であること。

つぎに考えられることは、子どもたちの生活そのものであるということである。過去・現在・未来自分の生活に役立ち、学習による再現は生活そのものに対する創意くふうともなる関心度の高いもの、つまり、生活を通して学び、学ぶことによって生活をより新たなものとする心の働きがある。

以上のことことが実際学習の場では教科としてよりは生活問題として学ぶことができること－合科統合といわれることはここをいうのであろう。単元宿泊学習の計画においても こよみを見る、それを参考に学校行事をしらべ、自分たちの予定表を作る。この流れの中には、数的などと言語的なこと図工的なこと、季節的・社会的なことなどが一つの形で学習するということになっている。

簡単にまとめていふと、子どもたちの共通の興味のあるもので、しかも生活の中から生活へと発展していくようなものであればよいということになるようだ。